



4K有機ELテレビ

PANASONIC

MZ2500シリーズ



批評家大賞

金賞

※TH-65MZ2500
※TH-55MZ2500

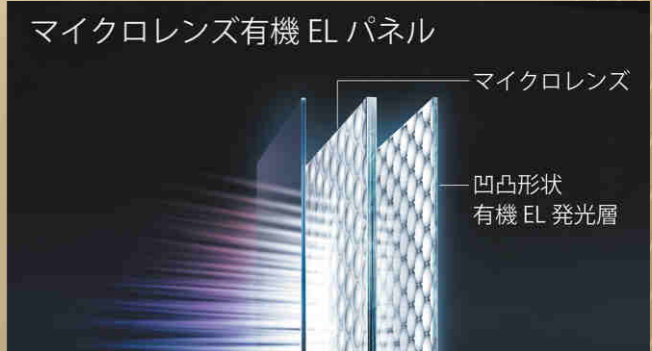
¥OPEN <65V型/55V型>

SPEC ●チューナー：BS 4K・110度CS 4K×2、地上デジタル×3、BS・110度CSデジタル×3 ●パネル方式：有機EL ●画素数：3,840×2,160 ●HDMI：4系統 ●音声実用最大出力：160W(65V型) ●外形寸法：1448W×903H×350Dmm(65V型) ※スタンド含む ●質量：約29.5kg(65V型)

ここがポイント①

マイクロレンズ有機EL

1画素あたり数千個のレンズが並べられた「マイクロレンズ」と有機EL発光層を一体形成した新世代の有機ELパネルを搭載したことが最大の特長。光のロス低減して、効率よく明るい映像を実現できるメリットがあり、明るさやコントラスト、色表現、視角特性などの大幅な画質向上につながりました。また、有機EL素子を高輝度で安定して発光させるためには、発生する熱をすばやく放熱する必要があります。パナソニックでは、放熱性能を高める独自のディスプレイ構造を採用することで、この課題をクリア、圧倒的な高コントラストを実現しています。



マイクロレンズ有機EL採用 4K有機ELビエラ

独自構造ディスプレイ 高画質を新次元へ

マイクロレンズ有機ELを採用した、独自構造ディスプレイによって有機ELテレビの画質を、次のステージへ導いたパナソニック「MZ2500シリーズ」。満場一致で批評家大賞に輝いたプレミアムテレビの魅力に、大橋伸太郎が迫ります。

輝く白、艶のある黒、豊饒な色彩

VGP審査員 大橋伸太郎



液晶方式のテレビには、Mini LED、量子ドットフィルターの採用という技術革新が起きました。今夏は有機ELテレビにも大きな進化がやってきました。輝度つまり明るさの大幅な改善です。液晶方式がバックライトを持ち、明るさを得やすいのに比べて、有機EL方式は、微小な画素が自ら発光する方式であるため、映像の微妙な表現や暗い部分の階調(段階的な変化)表現は優れていても、液晶方式ほど明るくすることができませんでした。このことから、明るいリビングは液晶、ホームシアターは有機ELという棲み分けが生まれつつありました。色再現や明暗のニュアンス豊かな有機ELテレビを多くの家庭に…パナソニックは継続して有機ELテレビと、明るさの改善に取り組んできました。パネルの組立を自社工場で行い、他社に先駆けて独自の放熱構造を取り入れたパネルを完成させたのも同社です。

VGP2023 SUMMER批評家大賞を獲得した「MZ2500シリーズ」は、新提案のマイクロレンズ有機ELパネルを採用した革新的なテレビです。マイクロレンズアレイと、その形状に合わせて凹凸を持つ有機EL

発光層を一体化して形成することで、内部反射によるロスを低減し、光の利用効率を飛躍的に高めました。そしてここで活きるのが、従前からのパネルの独自構造でした。マイクロレンズ有機ELに合わせ、放熱シート、独自素材を用いた貼付け構造、バックカバー一体型放熱プレートから成る「デュアルメタルヒートレス構造」を使用。結果、パネルの最大発光輝度は従来の一般的な有機ELに比べ、約2倍の明るさを達成したのです。

MZ2500の映像を実際に見るまで、実は不安もありました。パワフルなパネルの誕生で明るさ競争に陥って、有機EL方式の最大の特長である暗部の豊かな表現力、黒の締まりと艶、そして豊饒な色彩が後退してしまうのではないかと…しかしそれは杞憂でした。各社のテレビを審査するときに共通の「課題映像」とした、9世紀の北ヨーロッパのヴァイキングを主人公にした映画『ノースマン 導かれし復讐者』はダークシーンが頻出する厳しい映像ですが、暗部を潰さず浮かさず、抜群のバランスで予言や呪術が支配する神話的な世界観を描き出しま

す。もう一作、映画『ハウス・オブ・グッチ』は、レディ・ガガ演じる主人公が身につけるイタリアンジュエリーの輝きが進行に連れて凄味を増していき、彼女が野心と欲望の虜になっていくさまを、明るさの余裕と広大な色表現力で冷徹に追い、象徴的に描き出します。色表現、輝度、コントラスト、階調と三拍子も四拍子も揃わないとこれだけの映像はできません。映画のいちばん美味しいところの暗部の深みのあるニュアンス、一方で輝かしくキラのある明部、華やかな色彩。MZ2500は両立が難しかった要素を見事に表現できるテレビです。映像表現で難しいスキントーン(人肌)の表現も進化しています。肌色を検出して3D-LUT(ルックアップテーブル)で自然に見えるように処理します。視聴機会の多い地上波のニュースやバラエティの映像でも効果を発揮します。

画質だけでなく。従来からビエラのフラグシップは、テレビの下端に実音源をずらりと前向きに並べたスピーカーレイアウト(ラインアレイスピーカー)の音質に定評がありましたが、今回はスピーカーの制御アルゴリズムを見直し音の定位を改善し、より立体感のある音場が生まれています。それに横向きのワイドスピーカー、上向きのインネードスピーカー、背面中央のウーファー+パッシブブラスターを組み合わせた「360立体音響サウンドシステム+」。テレビの音声を超え、ジャズトリオの演奏をドルビーアトモスで収録したソフトはピアノ、ベース、ドラムスを揺るぎない定位で描き出します。

有機ELの常識を越える映像、スケール雄大な音響、ネット動画への水も漏らさぬ対応。MZ2500にはテレビの最先端が結実しています。

ここがポイント②

360立体音響サウンドシステム+

正面に「ラインアレイスピーカー」を搭載。そのほか上向き、横向きのスピーカー、ウーファーを配置し、立体的なサウンドを生み出します。65V型の場合の実用最大出力は160W、ラインアレイスピーカーは16個のユニットが1セットになっています。MZ2500シリーズから新たに波面制御技術の応用によって、セリフやボーカルの表現も向上しています。



ここがポイント③

ゲームコントロールボード



4K120P入力に対応しているほか、映像のフレームレートやHDRメタデータまで表示できる、ゲームに特化したユーザーインターフェースも用意されています。本格的なゲームプレイにも応用できるテレビです。